

# 集落排水制御システムが科技庁の注目発明に

インタビュー

小松昭夫・小松電機産業社長に聞く

## 製造分業で生産コスト圧縮

制御機器メーカーの小松電機産業(株)(島根県八雲村、小松昭夫社長)が開発した集落排水自動制御監視システム「やくも水神」が、先に科技庁の発表した全国百件の注目発明に選ばれた。製品の社会性や地域産業の振興につながる点などを評価基準としている注目発明の選定に「何よりもうれしい評価」と喜ぶ小松社長。「システムを全国に普及させるためにも他社との提携で製造分業を進め生産コスト圧縮を図る考えがある」という小松社長に今後の事業展開について聞いた。(経済部・金丸晃記者)

「やくも水神」開発のきっかけは何だったのですか。

「最終処理場との距離の関係もあり中山間地の下水道普及率は低いのが現状。川上の地域だけでなく川下の住民にとっても大きな問題と言えます。そこで二年



「下請けではなく横請けの関係で企業提携を進め、水神システムの普及を図りたい」と語る小松社長=松江市浜乃木、HNS研究所

## 新社屋で全国とオンライン化

半前に、中小の集落排水の処理施設を遠隔地で自動監視できる「やくも水神」を開発した。昨年にはさらに排水の窒素とリン分を九〇%除去する処理施設と自動制御システムをセットした「ニューやくも水神」の製品化にも成功。三千人程度が最も多

く利用される集落規模だと考えている。  
現在の普及状況は、やくも水神はこれまで、島根県内をはじめ鳥取や滋賀、兵庫各県内など二十一市町村で導入されている。職員の数を増やさず集落排水の処理施設を増やし

ていくには監視も制御装置も自動化に頼らねばならず、そうした背景からやくも水神のシステムが受け入れられた。  
大手メーカーや公的研究機関の間に割って入る形で注目発明に選定されましたが…。

「研究開発の優れた成果を一般に知らせる」という狙いがあり、本格普及を目指す時期にまたとない表彰となった。ニューやくも水神の場合は昨年三月、佐田町で初めて導入され、現在のところ佐田町だけでモデル的な稼働を続け千五百人の集落排水を処理、監視している。排水に含まれる窒素やリン分を九〇%除去することなどできないという見方をする人もいたが、この一年の佐田町での導入運用で成果が証明されている。佐田町のモデル成果をもとに広くPRしていく。

今後、ニュー水神を中心とした水関係の事業を展開していきます。

内はもちろん海外へもシステムを広めていきたい。他社との提携も考えており、それぞれの得意分野を持ち寄り製造分業を進めるなかで生産コストを下げ、より安価にシステムを提供していくと考えている。提携のスタイルは親企業と下請けという

関係ではなく、横請け的なつながりを築きたい。提携するのは製造分野だけに限らず、機器の設置など幅広い。それぞれの専門分野を横断的につないで生産するのが最も適性なコストで量産できる方法と考えている。

提携関係は周辺地域の企業で固めるのですか。  
提携の企業ネットワークは県内外を限定しないが、縁あって出雲の地で操業しているのだからできればこの地域の企業と提携したいという気はある。現在、松江の湖南テクノパークに新社屋の建設準備を進めており、完成と同時に排水の分析センターと水処理の相談センターを開設する。そうすれば全国各地に設置された水神と松江のセンターがオンラインで結ばれ、同時に多元監視できるシステム全体が出来上がる。提携については今からでも呼び掛けを始める。

閉鎖水域の中海・六道湖を抱える松江を水処理技術のメッカにしたいという目標から昨年には研究所を設立し、治水を題材にした伝記を出版したばかりと聞きますが…。  
中国の孟子の言葉に「志は氣の師なり」という言葉がある。出版事業では先人の偉業の顕彰を通して、志(こころざし)ある人を郷土に育てようと考えた。「一村一志運動」と呼んでいるが、今回の水神システム普及のための企業ネットづくりも出版事業もすべてがリンクしながら動いている。